

# 家庭学習のスタンダード (福島市版)



福島市教育委員会

# はじめに

子どもたちの学力の向上は、本市にとって喫緊の課題の一つであります。各小・中学校における授業改善を柱とした取り組みの継続により、着実に成果を上げつつあるところであります。このことは、全国学力・学習状況調査をはじめとする各種学力調査の結果にも表れているところです。

全ての子どもたちがその持てる力を発揮して自らの未来を切り拓き、「夢」や「希望」を実現していくことは、私たち教育に携わる者にとって共通の願いです。子どもたち一人ひとりに「確かな学力」を育成することは、学校に課せられた最大の責務であり、そのための取り組みには「これでよい」という終わりはありません。

家庭学習の充実については、これまでも各校及び各中学校区を単位として取り組まれておりましたが、このたび、本市としての家庭学習の指導の指針となる「家庭学習のスタンダード」を作成いたしました。各校及び各中学校区において、このスタンダードを活用したこれまで以上に組織的な取り組みが充実することを期待しております。

家庭学習の指導においてもその第一義的な責任は学校にあると捉え、この「家庭学習のスタンダード」は教員向けとして作成いたしました。子どもたちの学習習慣の確立のためには、家庭との連携が極めて重要であることから、保護者の皆様等にも御覧いただけるよう福島市小・中・特別支援学校ポータルサイトで公開をしております。各校においては、その趣旨を理解し保護者会等で家庭学習について共通理解を図るための資料としても活用いただきたいと思います。

平成29年9月

福島市教育委員会

## 目次

|     |                                     |    |
|-----|-------------------------------------|----|
| I   | なぜ家庭学習が必要なのか                        | 1  |
| II  | 家庭学習で育てる「資質・能力」                     | 2  |
| III | 家庭学習5（ファイブ）                         | 2  |
|     | 1 家庭学習は系統的・計画的指導により資質能力を育むものと共通理解する | 3  |
|     | 2 家庭学習は学校（中学校区）全体で組織的に指導する          | 3  |
|     | 3 家庭学習は「宿題＋自主学習」である                 | 4  |
|     | 4 家庭学習は「量」と「質」を重視する                 | 5  |
|     | 5 家庭学習は学校と家庭とが連携してこそ効果が上がる          | 6  |
| IV  | 家庭学習のめやす                            | 7  |
| V   | 効果的な実践例                             | 11 |
|     | 1 家庭学習のマネジメントサイクル化の例                | 11 |
|     | 2 授業と家庭学習のサイクル化の例                   | 13 |
|     | 3 ドリル学習に主体的に取り組ませる工夫の例              | 15 |
|     | 4 自主学習への取り組みを促す工夫の例                 | 16 |
|     | 5 活用型の自主学習（自主学習2）の例                 | 19 |

## ● 「生涯を通じて自己の向上に努める」基盤づくり

「なぜ、家庭学習が必要なのでしょうか？」

本市の教育振興基本計画では、「人間尊重の精神に基づき、広い視野をもち、生涯を通じて自己の向上に努める」ことを基本理念の一つとして挙げています。これまでも、私たちは人生の様々なステージで学び続け、その成果を自分の仕事や生活、社会に反映させることにより、自分の人生や社会を豊かにしてきました。現在の子どもたちが生きていくこれからの社会は、人工知能などの発達により情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進んでいくといわれています。英国の研究者の予測によれば、今後10～20年程度で、米国の47%の仕事が自動化される可能性が高いとされています。また、米国の研究者は、2011年に米国の小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就くと予測しています。この予測は、日本も無縁ではありません。職業の在り方や働き方、社会の在り方そのものが様変わりしていく中で、現在の子どもたちが自らの未来を切り拓き、生涯を通して社会で活躍し、豊かな人生を歩み続けていくためには、社会に出た後も学び続け、これまで以上に、新たに必要とされる知識や技術を身に付けていくことが求められます。学校教育では、子どもたちが「生涯を通じて自己の向上に努める」基盤を作ることが重要であり、それは、学校における学習のみでなく、家庭学習を通して培われるものです。

## ● 「自らの学びをマネジメントする力」と学力の向上

もちろん、家庭学習には、「学力の向上」という側面もあります。小学校の低学年から中学年、高学年、中学生と学年が上がるにつれて学習内容が多くなり、学校での学習だけでは全てを理解することが難しくなってきます。学校での学習→家庭での復習・予習→学校での学習というサイクルを確立することにより、学習内容が確実に定着し、学力の向上が期待できます。授業で学習したことをその日のうちに家庭で繰り返し学習することにより、記憶が確かになります。完全に忘れてしまったことを思い出すのはなかなか大変ですが、記憶が鮮明なうちに繰り返し学習することにより、仮に忘れてしまったことも簡単に思い出すことができます。さらに、教科書に目を通す程度でも翌日の授業の内容を予習しておけば、学習の見通しをもって授業に臨むことができます。予習の段階で分からないことが明らかになっていけば、「授業で疑問を解決しよう」と意欲的に授業に取り組むこともできます。このように、学校での授業と家庭学習が連動することで、「分かった」「できた」という体験が増え、学習が楽しくなります。そのことにより、子どもたちは主体的に学習に取り組むようになり、**自らの学びをマネジメント（管理）する力**が育ちます。これは、まさに生涯を通じて学び続ける態度の基盤となるものです。

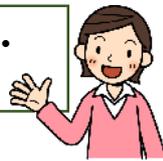
とは言え、家庭学習を「めんどくさい」「やりたくない」と感じる子どもが多いのも事実です。単に「家庭学習は大切だからやりましょう」では、子どもたちに生涯の学びにつながる態度を育てることは困難です。小・中学校9年間を見通し、学校と家庭とが手を携え合い、子どもの発達の段階に応じて系統的、組織的に、子どもたちが自分のスタイルに応じた学び方を身につけることができるよう、家庭学習について「指導」していくことが極めて重要です。

## Ⅱ 家庭学習で育てる「資質・能力」



マネジメントとは？

評価・分析・選択・改善・統合・計画・調整・組織化などを総合した概念のことです。



## Ⅲ 家庭学習5（ファイブ）

- 1 家庭学習は系統的・計画的な指導により自らの学びをマネジメントする資質・能力を育むものと共通理解する
- 2 家庭学習は学校（中学校区）全体で組織的に指導する
- 3 家庭学習は「宿題＋自主学習」である
- 4 家庭学習は「量」と「質」を重視する
- 5 家庭学習は学校と家庭とが連携してこそ効果上がる

# 1 家庭学習は系統的・計画的な指導により自らの学びをマネジメントする資質・能力を育むものと共通理解する

各学校では、様々な工夫を凝らして家庭学習に取り組んでいます。しかし、学年や学級によって取組に差があったり、学年が変わると指導方針も変わってしまったりすることもあるようです。



家庭学習は、子どもたちが「生涯を通じて自己の向上に努める」ための基盤となる**資質・能力を培うための系統的・計画的な指導の機会**であるということを、**学校全体で確認**しましょう。

P T A 全体会等の保護者が集まる機会や学校だより等を通して、家庭学習に対する基本的な考え方を保護者や地域の方にも知らせ、協力を呼びかけることも大切です。



# 2 家庭学習は学校（中学校区）全体で組織的に指導する

## 小学校

学年や発達の段階に応じた家庭学習の在り方については、「家庭学習の手引き」として示している学校が多い反面、「学年が上がったのに、宿題の量が去年よりも減った。」「今年の先生は、自主学習だけで宿題が出ない。」など、家庭学習の出し方、内容や量について様々な声を耳にすることがあります。

## 中学校

多くの学校で「学習の手引き」が作成され、入学後に時間をとって各教科の家庭学習の仕方について指導が行われています。しかし、指導内容が学年に任されていたり、その後は「学習の手引き」を活用する機会がほとんどなかったりする例も見られるようです。

また、日々の宿題は各教科の担当の先生がそれぞれに出すことが多く、日によって宿題の量が極端に多かったり少なかったりすることもあるようです。

## 学校としての基本的な方針や系統的な指導のめやすが必要

- 学年の始めに「家庭学習の手引き」の内容を全教員で確認
- 「家庭学習強化委員会」を設置したり、現職教育や職員打合せ等の機会を活用したりして、定期的に家庭学習の在り方について協議する機会を設け、手引きや方針に基づいて学級や教科で取組にばらつきがないか、手引きや方針が子どもの実態を踏まえたものになっているかなどを確認
- 特に中学校では、日々の宿題の出し方、内容や量などについても教員間で調整を図ることが必要。
  - ・ 小黒板に各教科の宿題を書き出しておき、他教科でどのぐらいの宿題が出されているのかを互いに「見える」ようにする。
  - ・ 提出日までに一定の期間を設定する。



### 3 家庭学習は「宿題＋自主学習」である



学校として**家庭学習の指導を行うための手立て**として、特に小学校では、**適切な量の宿題**を出しましょう。

宿題に加え、「**自らの学びをマネジメントする力**」を育てるために、**発達の段階に応じて自主学習**にも取り組ませましょう。

#### 家庭学習

##### 宿題

- 学校での学習の補完的な内容
- 復習的な内容
- 毎日繰り返すドリル的な学習
- 提出まで一定の期間を設定した課題

+

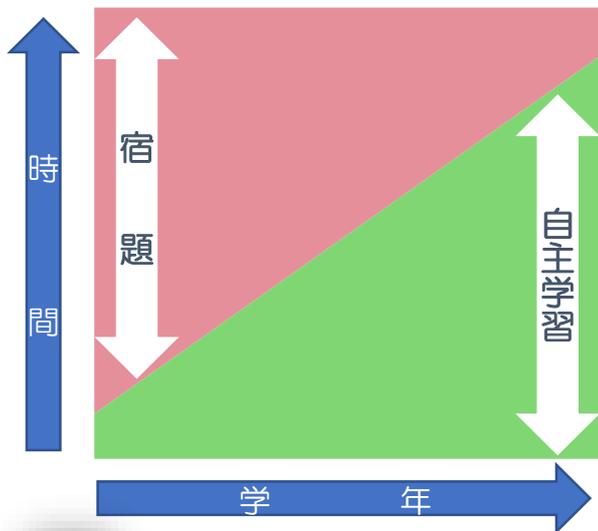
##### 自主学習 1

- 授業の復習、予習
- 自主的な問題演習
- 前の学年までの復習

+

##### 自主学習 2

- 自分の興味・関心に基づいて取り組む課題
- 授業で学習したことの発展的な課題
- 図書や新聞等を活用した調べ学習



自主学習は、「自主学習1」と「自主学習2」に分けて考えます。

小学校では、宿題中心の家庭学習から始め、少しずつ自主学習にも取り組ませるようにします。自主学習の導入段階では、取り組ませたい内容をまず宿題として出し、ノートのとまとめ方などについて丁寧に指導をしていくことが重要です。

中学校では、小学校での指導の上に立ち、自ら課題意識や必要感をもって家庭学習に取り組む態度を育成していきます。そのため、必要に応じて宿題も出しますが、授業の復習や予習を中心とした「自主学習1」や、各種検定の準備や高校入試対策等、自己の目標実現のために行う「自主学習2」への取り組みを重視します。

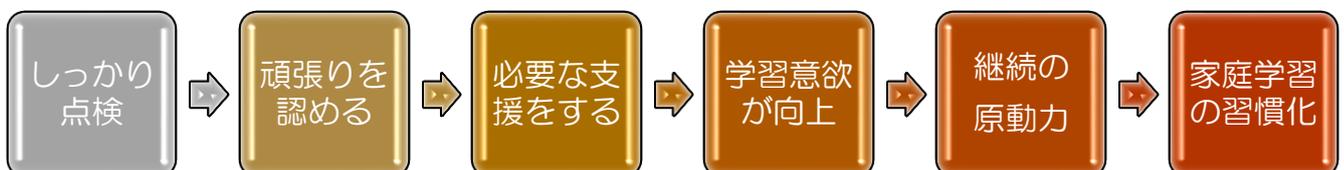


#### 家庭学習のやる気を支える「点検・評価」の工夫



家庭学習は、「自らの学びをマネジメントする力」を育てるための「指導」の機会ですから、**適切な点検・評価は必須**です。特に小学校では、子どもたちの**頑張りを認め・ほめる**ことで学習意欲が向上し、家庭学習の習慣化が図られていきます。

また、点検・評価によって子どもたちに**学習内容がどの程度定着しているかを把握**し、授業や補充指導に生かしていくことが重要です。



## 4 家庭学習は「量」と「質」を重視する

各学校で作成している「家庭学習の手引き」には、小学校では「学年×10分程度」、中学校では「学年+1時間程度」などのように、学年や発達の段階に応じた時間のめやすが示されています。

時間のめやすを示すことは、子どもたちが具体的な見通しをもって家庭学習に取り組むために非常に重要ですが、その時間で「何を」「どのように」学習するのかをきちんと指導することも重要です。



認知心理学の知見から、長時間続けて学習するよりも、適度な休憩を取りながら分散して学習した方が効率的であるといわれます。

**小学校では15分程度を1セット、中学校では20分から30分を1セット**とし、そのセットで何を学習するのかを明確にしながらか家庭学習を組み立てていくことで、量から時間のめやすを設定することができます。

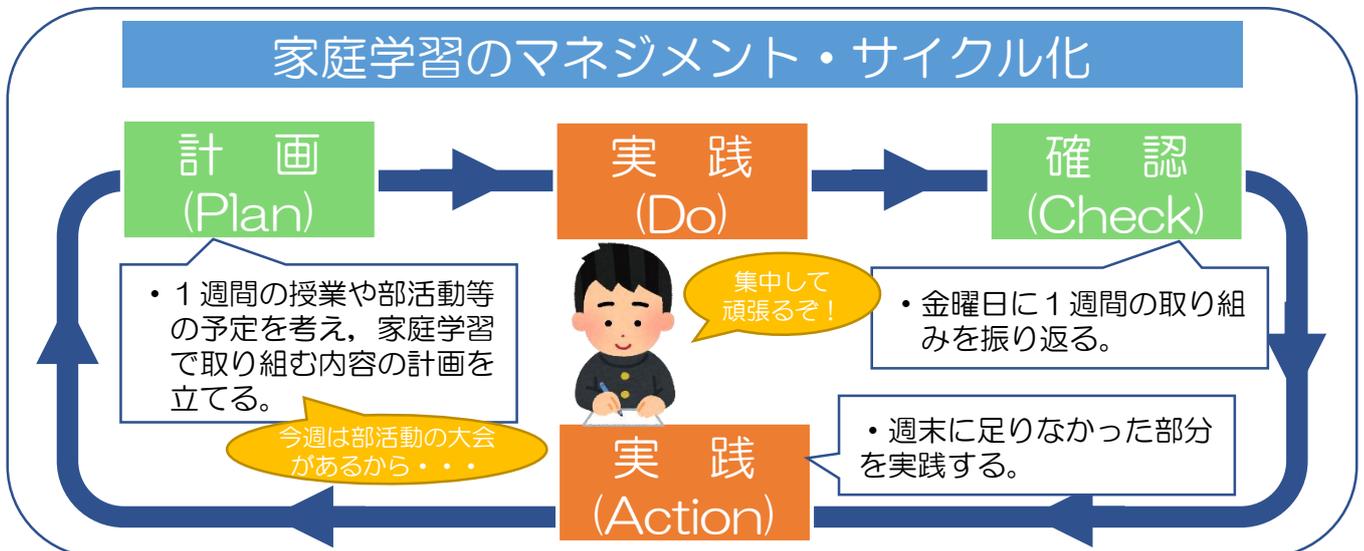
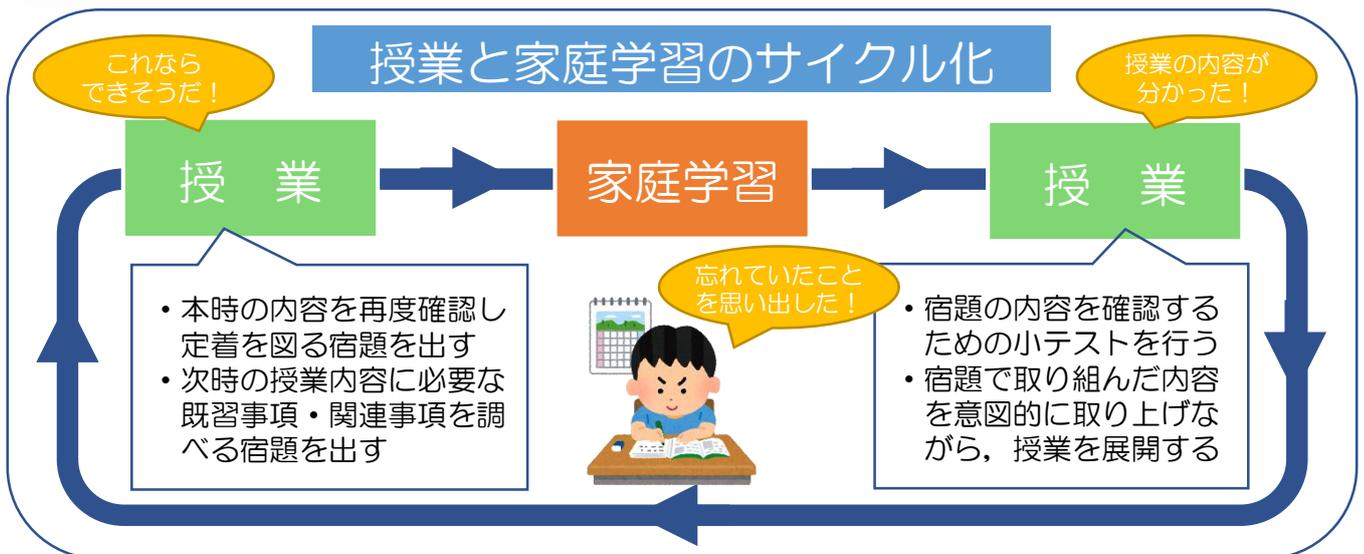
宿題

自主学习1

自主学习2



家庭学習の質を高めるために =2つのサイクル化=



## 5 家庭学習は学校と家庭とが連携してこそ効果が上がる

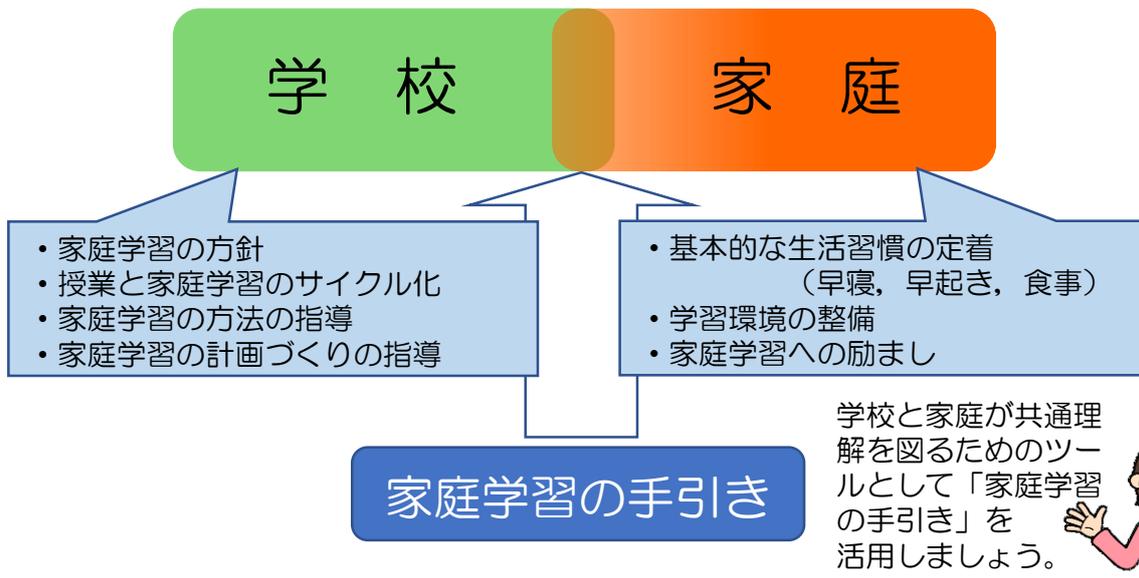
家庭学習は、先に示した資質・能力を育てるための指導の機会ですが、学習の場は学校を離れた家庭になります。  
そのため、家庭学習の指導の効果を上げるには、保護者や家族の理解と協力を得ることが重要になってきます。



家庭学習の指導においてもその**第一義的な責任は学校にあるという認識**をもって取り組むことが必要です。



### 家庭学習の指導における学校の役割と家庭の役割



### 御家族へのお願い ～学習習慣の確立のために～

- 1 基本的な生活リズムを整えましょう**
  - 早寝、早起き、朝ご飯の習慣を
- 2 学習の環境を整えましょう**
  - 小学生 決まった時刻に決まった場所で
  - 中学生 時間を上手に使い、自分に合った場所で
  - スマホなどの利用はルールを決めて
- 3 お子さんを信じて支えてあげましょう**
  - 温かな見守りと励ましを



## Ⅳ 家庭学習のめやす

### 小学校 1・2年

### 家庭学習入門期



#### 家庭でも学習する習慣を身に付ける

- 決まった時間に、家族の目の届く場所で、テレビを消して学習する。
- 机の上など学習をする場所を整理し、学習に必要なものだけを出す。
- まずは宿題から取り組む。

宿題

自主学习2

15分×1～2セット＝15～30分

- ・音読
- ・ひらがなや漢字の練習
- ・計算練習 など

- ・日記、作文など



### 小学校 3・4年

### 家庭学習充実期Ⅰ



#### 宿題に加え自主学习にチャレンジする

- 決まった時間に、家族の目の届く場所で、1セットごとに集中して学習する。
- 今日の学習内容を考え、学習に必要なものをそろえる。
- まずは宿題から取り組み、自主学习にもチャレンジする。

宿題

宿題  
(自主学习1)

自主学习1

自主学习2

15分×2～4セット  
＝30～60分

- ・音読
- ・ひらがなや漢字の練習
- ・計算練習 など

- ・授業の復習,  
(予習)

- ・言葉の意味調べ
- ・日記・作文
- ・調べ学習など

### 小学校 5・6年

### 家庭学習充実期Ⅱ



#### 自分で予定を立て工夫して学習に取り組む

- 始める時間を決め、家族の目の届く場所で、1セットごと集中して学習する。
- 何を学習するか計画を立て、必要な資料などを準備する。
- まずは宿題から取り組み、自主学习1にも取り組む。

宿題

宿題

自主学习1

自主学习1

自主学习2

15分×4セット以上＝60分以上

# 中学校 1・2年

# 実力養成期



## 学習内容・量などを調整し、計画的・継続的に学習に取り組む

- 自分の生活を見通して学習プランを立て、集中しやすい時間帯に集中しやすい場所で学習する。
- 何を学習しなければならないのかを考え、教科の組み合わせを工夫して学習する。
- 自主学習1（復習・予習）を中心に学習する。



**宿題** 授業における学習内容の習熟，補充的な内容  
**自主学習1** 授業の復習，予習，問題集，1・2年の学習内容の補充  
**自主学習2** 自己の目標実現のための学習(各種検定の準備，高校入試対策等)

### パターンA

20分×5セット＝100分



3教科の学習＋苦手教科の補充や発展的な学習、各種検定の準備等を2セット取り組むパターンです。



### パターンB

20分×6セット＝120分



5教科の学習＋苦手教科の補充や発展的な学習、各種検定の準備等を1セット取り組むパターンです。



### パターンC

20分×6セット＝120分



3教科の学習＋苦手教科の補充や発展的な学習、各種検定の準備等を3セット取り組むパターンです。



中学校では、小学校での指導の上に立ち、「自ら課題意識や必要感をもって家庭学習に取り組む態度」を育成していきます。

部活動なども始まり、帰宅時刻が小学校の時よりも遅くなるため、連続して学習時間を確保するのが難しい場合もあります。自分の生活を見つめ直し、「すき間時間」をうまく活用しながら、学習時間を確保していくことができるよう指導していくことが大切です。そうした指導を通して、自分に合った「学習スタイル」を確立していくことが、本市の目指す「自らの学びをマネジメントする力」の育成につながります。



中学校でも必要に応じて宿題が出されますが、授業の復習や予習を中心とした「自主学習1」や、各種検定の準備や高校入試対策等、自己の目標実現のために行う「自主学習2」への取り組みをより一層重視します。自主学習1では、実態にもよりますが、復習だけでなく予習にも取り組めるように指導することが大切です。



## 進路実現に向け、自律的に学習に取り組む

- これまでの経験を生かし、自分なりの学習スタイル（時間、場所、取り組み方など）を確立する。
- 授業の復習・予習に加えて、自己の目標実現のための学習（自主学習2）にも計画的に取り組む。

### パターンA

20分×6セット＝120分



1・2年時と同様に1セットを20分とし、5教科の学習＋苦手教科の補充や発展的な学習、各種検定の準備等を1セット取り組むパターンです。



### パターンB

30分×5セット＝150分



1セットを30分とし、5教科の学習を中心に取り組むパターンです。



### パターンC

30分×6セット＝180分



パターンAの1セットを30分にしたものです。5教科の学習を中心に取り組むパターンです。



### パターンD

30分×6セット＝180分



1セットを30分とし、3教科の学習＋高校入試対策等を3セット取り組むパターンです。



中学校3年は、「人生の節目の時期」です。保護者や家族と連携しながら、将来を見据えた目標を明確に持たせることが、学習の「やる気」にもつながります。

正確な進路情報を与えるとともに、教員や家族が信じ、支えることで不安を軽減し、安定した気持ちで学習に取り組むことができるようにすることも重要です。



## V 効果的な実践例

### 1 家庭学習のマネジメント・サイクル化の例

#### 実践例 1 「家庭学習計画表」の活用（小学校）

| 家庭学習計画表   |             | 4年  | 番【 】                                      |
|---|-------------|---|---|
| 6月  | 学習予定        | 学習計画  |   |
| 国語<br>・走れ<br>・メモの取り方をくふうして聞こう<br>・ローマ字<br>・みんなで新聞を作ろう<br>・(書写) 左右<br>算数<br>・わり算の筆算<br>・垂直と平行と四角形<br>理科<br>・電気のはたらき<br>・暑くなると<br>社会<br>・水はどこから<br>音楽 | 1<br>週<br>目 | <del>(国)「走れ」の漢字練習をする。</del><br>(算)ドリルでわり算の筆算練習をす<br>(音)「いろんな木の葉」のけんぱん練習をする。     | 終わったものは線で消す<br>週末に教師のコメントを記入する<br>みくできました |
|   | 2<br>週<br>目 | (国)「走れ」の意味を調べる。<br>(算)ドリルでわり算の筆算練習を<br>(理)電気をつくものを調べる。<br>(図)「アイデアボックス」の設計図を作る。 | 翌週に取り組むことにしたものは→で示す                       |
|   | 3<br>週<br>目 | (国)ローマ字の復習をする。<br>(社)ダムのはたらきをインターネットで調べる。                                       |   |

教師：月の学習内容を提示する。

児童：自分で週ごとの家庭学習の計画を作成する。



小学生の実態を踏まえ、復習・予習の内容を教師から例示し、取り組み方などについても丁寧に指導しましょう。

#### 【復習内容例】

- ・「間違いノート」の作成

授業やテストで間違った問題や、間違いそうだと思う問題を集めたノート作成する。間違った理由や、次回間違えないようにするためのアドバイスを書きこむ。

#### 【予習内容例】

- ・新出漢字を練習する。(ドリルや教科書を使って筆順を調べ練習する。)
- ・教科書を音読し、掲載されている言葉の意味を辞書で調べる。

「家庭学習計画表」は、自主学习ノートに貼り付けて、毎日提出させる。

週末の朝や帰りの時間に自分の1週間の取り組みを振り返る時間を設けると「やる気」が持続します



## 実践例2 「定期テスト」への取り組み（中学校）



「定期テスト」後の振り返りを充実することにより、自らの学習内容の定着度を把握し、家庭学習の内容や取り組み方を改善することができます。

### PLAN

【定期テスト前】・目標の設定

・テスト範囲表を活用し、テストに向けた学習計画の作成

### DO

【定期テスト前】テストに向けた家庭学習の実行

### CHECK

【定期テスト後】「評価票」を活用したテスト結果の分析・評価

| 3年数学 1学期中間テスト評価票        |                                     | 3年 組 番 氏名  |   |   |  |
|-------------------------|-------------------------------------|--|---|---|--|
| 関心・意欲・態度                |                                     | 数学的思考  | 技能                                      | 知識・理解   |  |
| 1.<br>2年<br>の<br>復<br>習 | ① 忘れ物をしない。                          | ・母線と底面の円の半径の比と、側面のおうぎ形の中心角の関係を、利用して角の大きさの求めることができる (2)                 | ・正負の数や文字式の計算ができる (4)<br>1 (1) ① ②       |   |  |
|                         | ② 2分前着席、1分前学習に取り組んでいる。              | 3 (3)  | ・比例式や連立方程式<br>1 (2) ①                   |   |  |
|                         | ③ 授業に積極的に参加している。(発言・発表)             | ・垂直二等分線の作図を利用して、円の中心を求めることができる (2)                                     | ・等式を変形すること<br>2 (1)                     | 教師：問題ごとの出題意図を示す                               |  |
|                         | ④ 板書は必ず書き写している。                     | 3 (4)  | ・数量の関係から連立方程式を<br>2 (2)                 |   |  |
|                         | ⑤ 自分のポイントをノートに書いている。                | ・図形の性質を考察し、文字を使って証明することができる (6)  | ・有理数の $y$ の増加量を求めることができる (2)<br>2 (3)   |   |  |
|                         | ⑥ 提出物を期日までに提出している。                  | 4  | ・球の体積を求めることができる (2)<br>3 (1)            |   |  |
| 多<br>項<br>式             | ⑦ 数学の学習を毎日している。(仔細・暗算・暗算)           | ・式を考察し、乗法公式を利用した計算をすることができる (4)<br>8 (1) (2)                           | ・単項式と多項式の乗法・除法の計算ができる (4)<br>6 (1) (2)  | ・式の展開について理解している (8)<br>5 (1) ① アイウ            |  |
|                         | ⑧ 「実力アップ問題」を計画的に進めている。              | ・分配法則や因数分解の公式を利用して多項式の因数分解をすることができる (12)<br>10 (1) (2) (3) (4) (5) (6) | ・式の展開ができる (12)<br>7 (3) (4) (7) (5) (8) | ・多項式の因数分解について理解している (10)<br>6 (2) アイウエオ       |  |
|                         | ⑨ 問題文の情報を自分でやり取りし、見極めるようにしている。      | ・問題文の例から多項式を関を利用して因数分解する方法を見出し、問題に答えることができる (4)<br>11 (2) 関 式          | ・多項式の因数分解ができる (6)<br>9 (4) (5) (6)      | ・基本的な式の展開のしかたを理解している (4)<br>7 (1) (2)         |  |
|                         | ⑩ 配布されたプリントをきちんとファイルに収めている。         |  |   | ・基本的な多項式の因数分解のしかたを理解している (6)<br>9 (1) (2) (3) |  |
| 合計                      | ①～⑥まで ○1つ2点<br>A20-16 B16-10 C9-0 点 | A30-24 B23-15 C14-0 (30) 点   | A40-32 B31-20 C19-0 (40) 点              | A30-24 B23-15 C14-0 (30) 点                    |  |
| よくできた内容                 |                                     | できなかった内容   | 改善方法                                    |   |  |

生徒：テスト結果を自己分析して課題を明らかにし、改善方法を考える

### ACTION

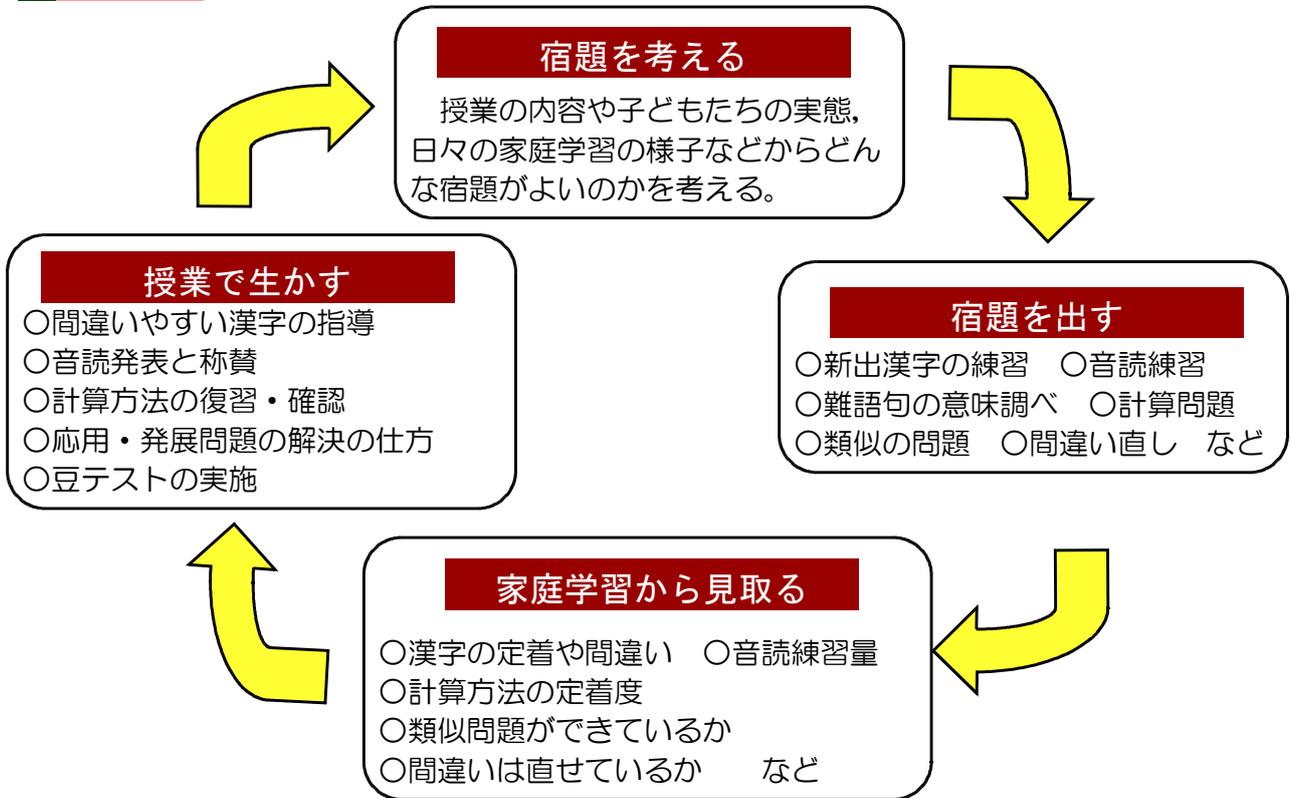
【定期テスト後】・できなかった内容の復習

・次回テストに向けた家庭学習の取り組み



## 2 授業と家庭学習のサイクル化の例

### 実践例 1 授業内容とリンクした宿題（小学校）



▶具体的には・・・

新出漢字の学習（授業）→新出漢字の練習（宿題）→宿題の見取りから間違いの多い漢字の指導（授業）→繰り返し練習（宿題）→豆テストの実施（授業）→間違えた問題を重点的に練習（自主学習）

発展・応用問題への取り組み（授業）→類似問題への取り組み（宿題）→宿題の見取りから解決方法の発表場面の確保と称賛（授業）→再度チャレンジ（自主学習）

はじめは宿題として出し、授業と関連を図った指導をとおして自主学習での取り組みへと発展させていきます。



授業とのサイクル化のためには、子どもたちの家庭学習の取り組みを教師が見取ることが大切です。見取りから子どもたちの理解の状況、誤答、頑張りなどを把握して授業での指導やその後の宿題の出し方や内容に生かしていきます。子どもたちにとって、「家庭学習をやってよかった」と思えるような体験を積み重ねることが、家庭学習の習慣化にもつながります。



### 3 ドリル学習に主体的に取り組ませる工夫の例

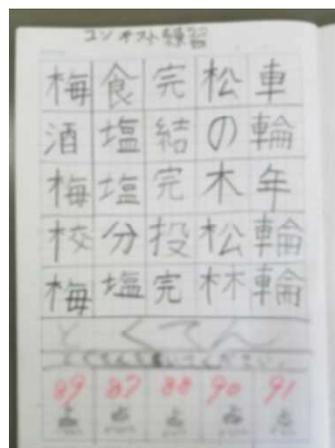
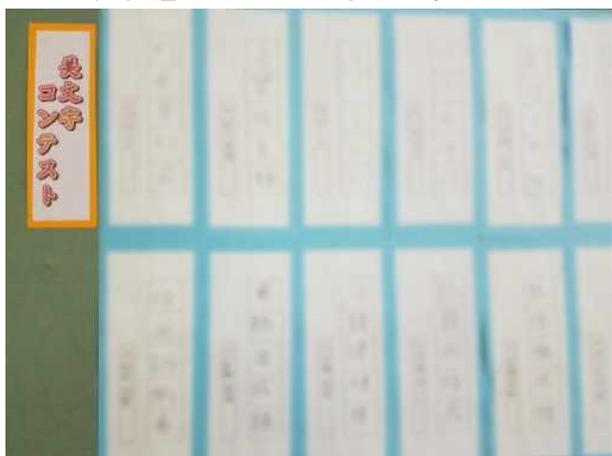


どうしても単調で機械的になりがちなドリル学習ですが、知識・技能の確かな定着のためには欠かせない学習でもあります。子どもたちにも分かりやすい目標を設定することで、主体的な取り組みを促すことができます。

#### 実践例1 「美文字コンテスト」の実施（小学校）

新出漢字を用いて「美文字コンテスト」を行う。「美文字」を意識させることで、子どもたちは、毎日の漢字練習において点画や止め、はね、払いなどを正しく丁寧に書こうと意識するようになる。最後に各自の練習の成果を掲示し、お互いの文字を見合うことで、友達からよさを称賛され、達成感を味わうことができた。

はじめは宿題として漢字練習をさせていたが、回を重ねることで「コンテスト」を意識し自主学习として取り組めるようになった。



#### 実践例2 「豆テスト」の実施（中学校）

① 自主学习ノートを使って漢字・英単語などのテストを自作する。

正解するまで繰り返す

|             |    |
|-------------|----|
| ××○(1)かてい   | 家庭 |
| ×○ (2)がくしゅう | 学習 |
| ×○ (3)もんだい  | 問題 |
| ○ (4)かいとう   | 解答 |

問題を書く

答えを書く

ここで折ると何度も問題を使える

② 答え合わせをする。

- 問題番号の先頭にできたときは○、できなかったときには×を付けておく。

③ 間違った漢字・英単語を練習し、再チャレンジする。（できるまで繰り返す）

④ 数日後にもう一度チャレンジし、定着しているかを確認する。

中学生の発達段階として、既にできることや解ける問題を何度もやらせるのではなく、できないところに集中して取り組むように指導します。



# 4 自主学習への取り組みを促す工夫の例

## 実践例 1 「ぱっちりメニュー」と「わくわくメニュー」(小学校)

### 家庭学習の手引き

毎日70分間をこえるようにしましょう。(10分間×学年+10分) 6年生

**1. かならず宿題をやります。**

音読 しせい はっきりとした声 速さ 気持ちをこめて  
 漢字 書き順や送りがな 読み仮名 よく見て丸付けし、直して練習する。  
 算数 正しく 速く 式や答え(単位をわすれない)をしっかりと書く。  
 答え合わせをして、なぜまちがえたのかを書く。  
 日記 原こう用紙の使い方 まとまりや段落を意識しましょう。

**2. 宿題が終わったら、自主学習。**

《ノートのれい》

○月○日  
○回目  
学習した時間  
「めあて」  
  
を書いて始めます。

○月○日○日 0:00~0:00

めあて ~~~~~

① ぱっちり  
メニュー

② わくわく  
メニュー

ふりかえり

よかった点

かいぜん点

「ふりかえり」  
よかった点  
かいぜん点  
2行くらいの文で  
書き、次のめあてに  
つなぎます。

① ぱっちりメニュー(国語と算数のふく習)

- 教科書や授業のノートを見てまとめる。
- 教科書の後ろのページやドリルの練習 など

② わくわくメニュー(得意なこと・興味のあることをのぼす学習)

|     |  |
|-----|--|
| ことば | ・漢字の部首調べ ・漢字の問題を作って自分でとく ・意味調べ ・英語やローマ字 ・詩を書く<br>・四字熟語調べ ・読書、ニュース、新聞記事の感想 ・俳句や短歌づくり ・公式の整理 |
| 説明  | ・算数問題づくり ・理科の実験のまとめ ・料理の作り方まとめ ・買い物のねだん調べ  |
| 図   | ・サインづくり ・おり紙 ・キャラクターづくり ・図形をかく   |
| 音   | ・作曲 ・音楽の感想 ・リズムで暗記   |
| 心   | ・友だちのいいところさがし ・家族紹介 ・クラスの問題のかい決さく  |
| 計画  | ・目標づくり、ふりかえり ・テスト見直し   |
| 自然  | ・動物観察記録 ・星座調べ ・ペット紹介 ・草花調べ<br>・環境にやさしい取り組み計画 ・生き物の飼い方調べ                                    |

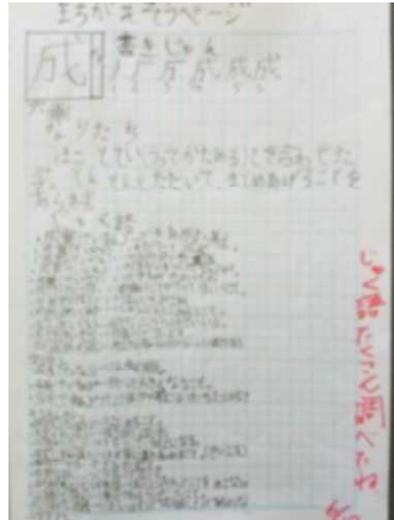
「家庭学習の手引き」に自主学習ノートの使い方や内容の例が示されています。



- 家で使っている問題集など学習した内容を「家庭学習カード」に記録しましょう。
- 答えを見て丸を付けた後、直したり、なぜまちがえたかを書いたりしましょう。

【ばっちりメニューの例】

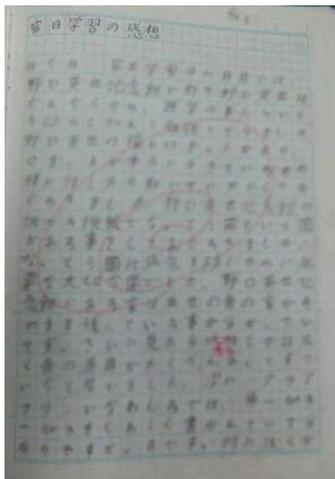
自主学习 1 の内容



テストやドリル学習などにおいて、間違った文字や覚えにくい文字を取り上げ練習しています。自分自身へのアドバイスを吹き出しに書くことで、以後、意識してその文字を書くことができるようになりました。

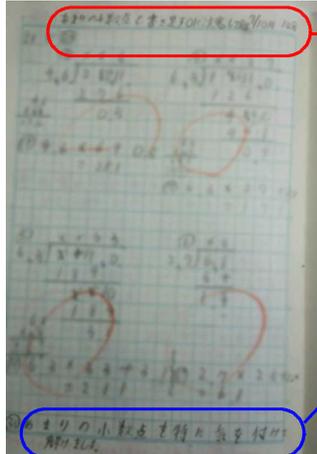
【わくわくメニューの例】

自主学习 2 の内容



行事の感想や、自分が興味を持った事柄について調べ、ノートにまとめています。まとめる際には、写真や図を用いたり、大事なところに色を付けたりと工夫が見られます。

【めあてと振り返りのあるノートの例】



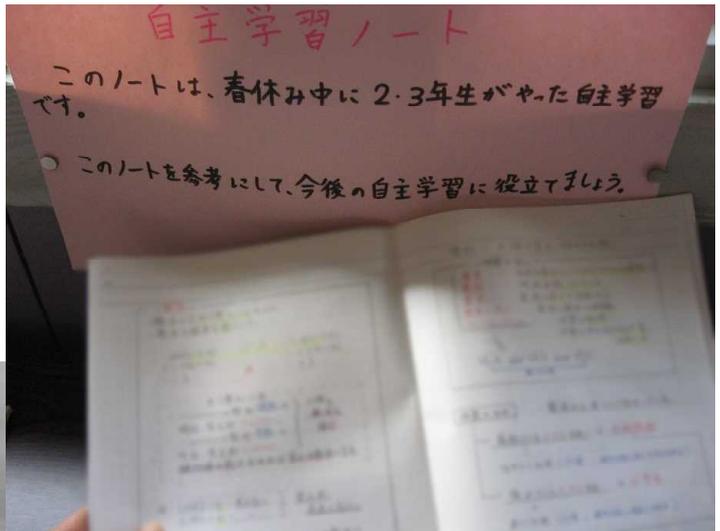
■今日の自主学习の目標や気を付けることを記入する。  
「あまりの小数点と書き足す0に注意して解く」

■学習に取り組んだ後にめあてが達成できたかを振り返る。  
「あまりの小数点を特に気を付けて解けました」

## 実践例2 先輩の自主学習ノートに学ぶ（中学校）

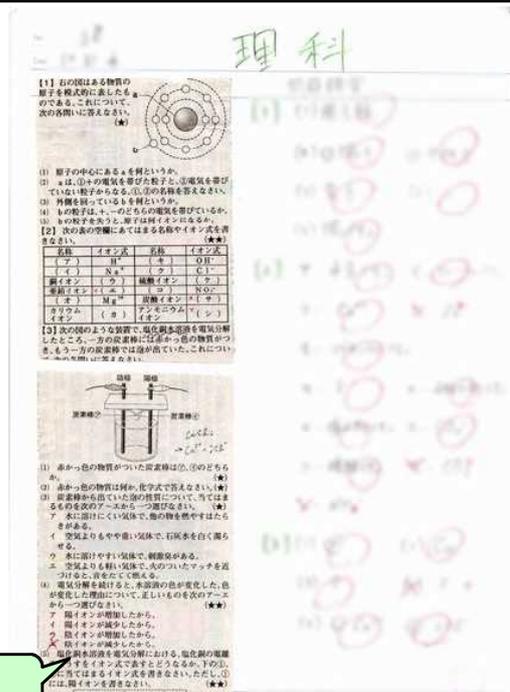
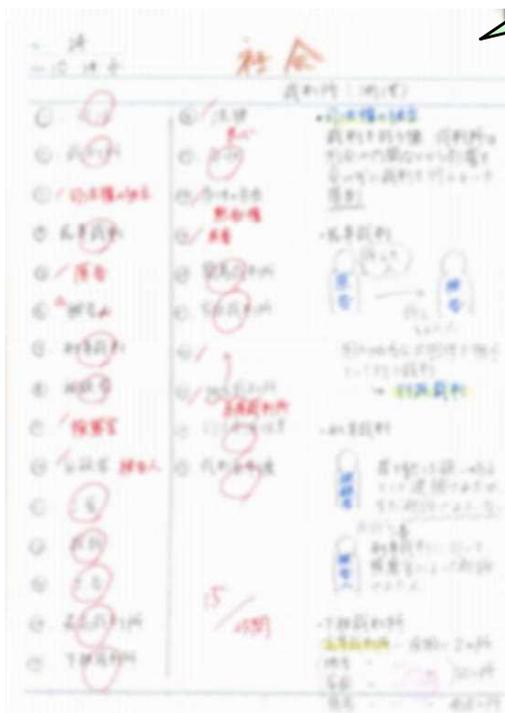
新1年生が入学した4月に、家庭学習の進め方の指導と並行して、2・3年生が春休み中に取り組んだ自主学習ノートを展示する。

入学したての1年生にとって「中学生としてどのように自主学習を進めればよいのか」先輩の生のノートから学ぶところは大きい。



学習が終了したノートを丸ごと展示することで、学習の積み重ねの大切さを学ぶことができます。特に優れた取り組みは、具体的に紹介します。

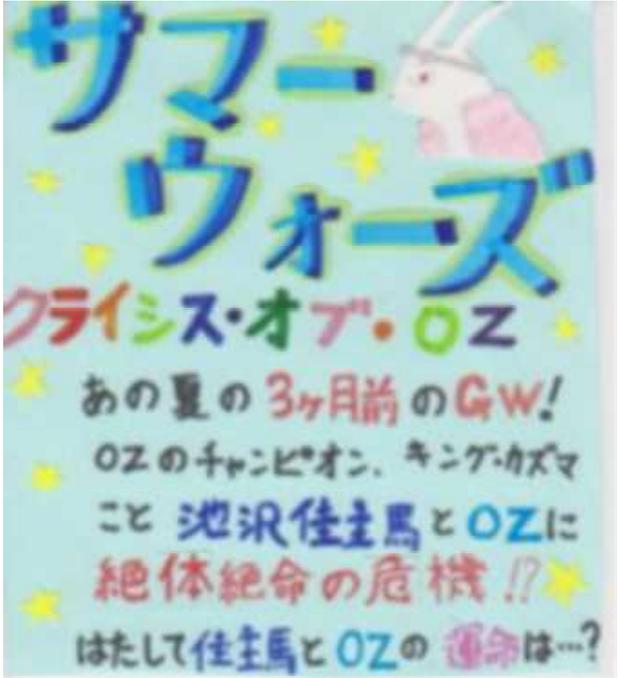
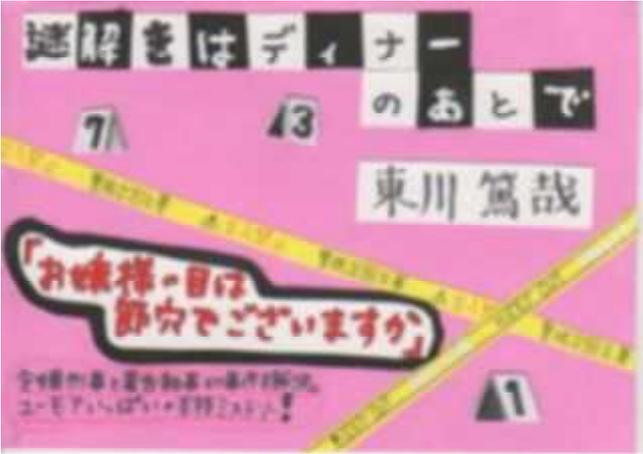
問題練習で間違えた項目の内容を詳しく復習している。



# 5 活用型の自主学習（自主学習2）の例

## 実践例1 おすすめの本のポップを作る（中学校）

国語科の学習の発展として、自分の「おすすめの本」を紹介するためのポップを作成するよう促し、できた作品は学校内に掲示した。ポップの作り方については、小学校で学習していることから、自主学習として取り組むことができた。



活用型の自主学習は時間がかかるので、週末や長期休業期間などを利用して取り組ませることが有効です。

## 実践例2 教科書の内容を新聞にまとめる（中学校）

福島市立〇〇中学校 3年〇組 氏名 〇〇 〇〇

### 月の起源Q&A新聞

どうして3つの古典的仮説は否定されたのか？

|  |   |  |
|--|---|--|
| <p><b>分裂説（親子説）</b></p> <p>自転速度に難<br/>分裂するほど、高速に自転をしたとは考えられない。</p> <p>Q 「分裂説」では、月は何かからできたと考えられるか？</p> <p>A 地球の一部がちぎれ、月になったと考えられている。</p> | <p><b>共成説（兄弟説）</b></p> <p>鉄の少なさ 説明不能<br/>地球との材料物質が違いすぎ、近くで作られたと考えにくい。</p> <p>Q 月に、ある物質が少ないために「兄弟説」が成立しない。何が増えれば成立するか？</p> <p>A 核の中心となる鉄が増えたと成立する。</p> | <p><b>捕獲説（他人説）</b></p> <p>地球では捕獲不可能<br/>材料物質の違いや地球の引力で月を捕獲するのは難しいと考えられる。</p> <p>Q なぜ、地球が月を捕獲することは難しいと考えられているのか？</p> <p>A 月は地球の重力では捕獲できないほど大きいから。</p> |
|--|---|--|

この3つの欠点を補う説

**巨大衝突説** (3つの古典的仮説を克服)

巨大衝突説のモデル

Q どのような方法で巨大衝突説を検証しているのか？

A コンピュータシミュレーションを使って検証している。

**感想**

まーと目だけじゃなく、世の中には当り前に思っているけど、実際に調べてみると面白いものがあると思う。明日から月を見るのが楽しみたい。

**◇どうして「ほぼ」なのかな？◇**

「巨大衝突説」を裏証されたわけではなく、有力な説の一つに過ぎない。そのため、「ほぼ」という言葉を使っている。

教科書の教材を新聞形式に再構成することで、教材の内容についての理解が深まる。新聞の構成については、小学校で学習しているが、生徒の実態によっては大まかな割り付けを提示した方がよい。はじめは、宿題として取り組ませたが、徐々に自主学習で取り組むことができるようになってきた。

新聞作りは、学習の発展として様々な教科で取り組める活動です。例えば、社会科の「歴史人物新聞」、理科の「人体の不思議新聞」など、授業のまとめとしてある程度取り組み、残った部分を家庭学習でまとめさせるといった方法もあります。



平成29年度 福島市学カグレード・アップ事業  
 家 庭 学 習 強 化 委 員

| 所属学校名   | 職名 | 氏 名   | 担当教科等  |
|---------|----|-------|--------|
| 福島第四小学校 | 教諭 | 亀岡 洋  | 小学校国語科 |
| 土湯小学校   | 教諭 | 齊藤 雄策 | 小学校算数科 |
| 立子山中学校  | 教諭 | 橋本 武志 | 中学校国語科 |
| 福島第三中学校 | 教諭 | 三浦 亜紀 | 中学校数学科 |
| 北信中学校   | 教諭 | 木村加代子 | 中学校英語科 |

《事務局職員》

|         |         |
|---------|---------|
| 学校教育課長  | 土 田 宏   |
| 主 幹     | 糺 田 祐 子 |
| 指 導 係 長 | 丹 治 秀 樹 |
| 主任指導主事  | 嶋 原 理   |
| 指 導 主 事 | 芳賀沼 真由美 |
| 指 導 主 事 | 島 田 祥 司 |
| 指 導 主 事 | 齋 藤 匡 史 |
| 指 導 主 事 | 亀 田 和 弘 |
| 指 導 教 諭 | 須 田 早 苗 |

家庭学習のスタンダード（福島市版）

平成29年9月 発行

福島市教育委員会